

ニュースレター第36号をお届けいたします。今号は樋野先生と代表の大嶋先生が担当します。

継続 & 忠実 & 親切 ～ 温かく迎えるおもてなし～
樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長）



2025年12月13日 第143回【お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC Christmas Concert講演会&対談】に赴いた。プログラムは、【1. 樋野先生 記念講演 2. 鈴木穂波さんのチェロ演奏 3. 樋野先生と大嶋先生の対談 4. がん哲学外来&メディカルカフェ（樋野先生の面談と並行してカフェを行います）】と紹介されていた。大変有意義な 充実した 貴重な時となった。【お茶の水メディカル・カフェ】は、2012年5月26日に当時OCC副理事長であった榊原寛(1941-2020)先生が始められた。

この度、『OCCニュースレター第36号』の原稿を依頼された。来年(2026年)は、『第150回記念誌発行』が企画されるようである。『冗談を本気でする胆力 = 常に志を忘れないよう 心にかけて記憶することである』の実行である。

『マリヤ と エリサベツの『訪問』の物語』が、鮮明に甦って来た（ルカの福音書 1章 39-49 節）。『訪れる人を 温かく迎え入れる』原点でもあろう。【お茶の水メディカル・カフェのスタッフのおもてなし】は、まさに、『エリサベツが 来訪者マリヤを温かく迎えたように・・・』の実践で、『役割意識 & 使命感の自覚』でもある。

『新渡戸稲造の言葉の処方箋』を実感する日々である。

発心を忘れずに継続（『修養』より）
小さな職務に忠実であれ（『人生読本』より）
親切とは行動すること（『世渡りの道』より）





メディカルカフェクリスマスが行われました。
音楽ゲストはチェリストの鈴木穂波さんでした。
重低音のチェロの音色は、私たちの魂の深いところに
触れるようで、私達の中にある悲しみや痛みを慰めて
くれるような演奏でした。クリスマスは街が華やかになり、
心浮き立つような空気感に溢れています。しかし実際は私達のなかには、大切な人やか
けがえのない家族を送った悲しみがあります。また自分のがんがいつ再発するのかとい
う不安がありますし、抗がん剤による副反応の苦しみがメディカルカフェに来てくださ
る方々の日常にはあります。



しかし靴を履き、家を出て、音楽に耳を傾ける。そして自分と同じ悲しみを持った
方々と出会う時、私たちは深い慰めを得ます。そして樋野先生が教えてくださるよう
に、自分には使命があるのではないかと、自分の外からやってくる言葉によって、自分
の悲しみのうずくまることなく立ち上がることが出来るようになるのです。

イエス・キリストは飼い葉桶のある家畜小屋で生まれました。救い主メシアと呼ばれ
る存在がどうしてそんな場所で生まれなければならなかったのでしょうか。それは私た
ち人間の貧しさ、寂しさ、悲しみを「私はわかるよ」と神が人に伝えようとされたから
でした。キリストは華やかな、誰もが羨むような場所に生まれたりはいしません。今も悲
しみと痛みの中にある者たちと、神は共にいる。私たちは誰かが自分をわかってくれる
時、私たちは自分の居場所を得ます。OCCで行われたメディカルカフェクリスマスはそ
のような自分を分かってくれる人がいる。その後に持たれたカフェタイムも、樋野先生
との面談もおだやかであたたかい時間でした。新しい年が始まります。このニュースを
お読みくださる方にも豊かな慰めと励ましがありますように。

お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC 代表 大嶋 重徳

本年もたくさんの方にご参加いただきありがと
うございました。来年もよろしくお願い申し上
げます。

一年お世話になりました

